**平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》**

| 都道府県・指定都市番号 | 59 | 都道府県・指定都市名 | 京都市 |
|---|---|---|---|
| 学校名（児童数） | きょうとしりつ さ が の しょうがっこう<br>京都 市立 嵯峨野 小学校 （775 名） | | |

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：京都府京都市右京区嵯峨野千代ノ道町 53
電話番号：(075)861－4177　ＦＡＸ：(075)861-4178
研究内容等を掲載しているウェブサイトのURL：sagano-s@edu.city.kyoto.jp

**【研究成果のポイント】**

○　研究のキーワード：
・道徳の時間以外の道徳教育を補充・深化・統合する（嵯峨野カリキュラムの作成）
・道徳の研修会と授業研究（全クラスで道徳の研究授業を実践し学校全体で研修会を行う）
・読み物資料の提示の工夫（ＩＣＴを活用した読み聞かせ・紙芝居など）
・言語活動の充実を図った道徳の授業（多様な価値に接し自分の考えを深める）
・環境整備（道徳掲示板・資料ボックス・児童が持つ道徳ファイル）

○　研　究　成　果　の　ポ　イ　ン　ト
・読み物資料を使った授業展開　　・価値に迫るための言語活動の工夫

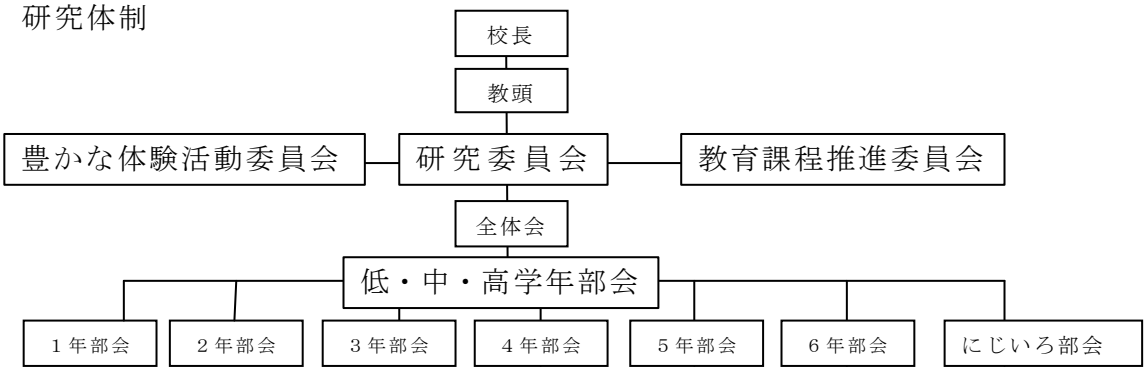
（１）研究主題

| 自からの規範意識を高め　互いの考えを尊重する　心豊かな児童の育成 |
|---|

（２）研究主題設定の理由

本校の児童は，明るく素直で，興味を持ったことには熱心に取り組み，仲間と協力して力いっぱい活動するなど子どもらしさを感じる児童が多い。しかしながら，相手を受け入れたり思いやったりする心については，まだ課題を感じる児童が多いという実態が見られた。そこで，研究主題を「自らの規範意識を高め　互いの考えを尊重する　心豊かな児童の育成」とし互いの関わりを大切にしながら，人間としてよりよく生きていく力を身に付けるためにはどうすればいいのかということをさらに深めていくため，道徳の授業を通して，研究に取り組んでいる。

（３）研究体制




（４）１年間の主な取組の経過

| | |
|---|---|
| 平成25年度 | 4月　校内研究計画・年間活動計画・目指す子ども像・研究主題・重点項目<br>5月　道徳理論研修（赤堀先生来校）　6月　授業研究　２年・６年　７月授業研究<br>４年　7月～8月　研究発表指導案検討会　　9月　授業研究　５年・３年（赤堀先生来校）10月　　授業研究　にじいろ学級・１年　12月　研究発表会<br>12 月　研究発表会反省　　１月～３月　研究のまとめ・来年度に向けて |

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

研究の重点　「読み物資料を通して，めあてに迫るための言語活動を工夫する」

1　ＩＣＴを活用した資料の提示

電子黒板を使って資料を読み聞かせを行う際,挿絵の中に登場人物の台詞を入れたり,場面に動きを付けたりするなど，資料の内容をより理解しやすいように工夫した。

2　ワークシートの工夫

気持ちの変化をより深く理解するために，ワークシートの下には変化する前の気持ちや状態を書くようにした。必要に応じて,話型を電子黒板に掲示するなど支援をした。

3　伝え合い活動

自分の思いをみんなが話すという点で伝え合いは大切だと考えた。活動はねらいに合った形で，二人組・グループ・クラス全体などの伝え合い活動を行った。机の形を話し合いの形態で変化させるなど，道徳的価値に対する多様な感じ方・考え方を理解しやすいようにした。

4　板書

授業の初めに，めあてを提示することで，この資料で何を考えていくのかをはっきりさせるとうにした。資料の流れがよく分かるように，時系列でチョークの色を変えたり授業の流れがより分かりやすいように掲示物や板書の位置を変えたりなどの工夫をした。

5　授業の準備

教師自身が，児童の意図を明確にして指導の方針を定めるため，授業前に資料分析をしっかり行った。また，価値がぶれないように意識しながら授業を行うようにした。

**【研究成果とその意義等】**

（１）研究成果

・言語活動の工夫については，どの学年も様々な工夫を行った。ワークシートに書き込んだり,グループやクラス全体での話し合い活動を意図的に取り入れたりすることで,発言の苦手だった児童も徐々に自分の思いを素直に伝えることができるようになってきた。伝え合う活動を通して，自分の思いを伝えるだけでなく，友だちの思いを共感的に受け止めることができるようになってきた。

・教師自身が，ねらいとする価値に迫るため，どのような発問や切り返しの言葉が必要なのかを考え授業を展開することができるようになってきた。その結果，児童が道徳的な価値に対する考えを深められるようになってきた。

（２）研究成果の意義等

・読み物資料を使った授業を研究の重点にすることで,事前に資料分析をしっかり行い，発問についての価値は何であるかを共通理解することができた。また，本時のねらいに迫るための中心発問においては，展開後段の価値の決定に繋がる発問の仕方や教師の切り返しの言葉について事前に話し合い研究を深めることができた。

・言語活動の充実においては，ワークシートや伝え合う形を研究し授業に取り入れることで，道徳的価値に対する多様な感じ方・考え方を理解させるとともに，自己の生き方について考えを深めることができた。

（３）指定期間終了後の取組

・現学年の反省において，児童の変容（成長と課題）を明らかにし，次年度の研究に繋いでいけるようにすること。

・道徳の時間以外で行う道徳教育と道徳の時間をどう繋いでいくかについては，まだ課題が残った。道徳の時間と他教科・領域の指導内容の時期との関連表などを踏まえた嵯峨野カリキュラム表を考え，次年度に向けて作成していきたい。